

(3) 「B書くこと」

B書くこと〔小学校低学年〕

【目標】

経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
- オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

【言語活動例】

- ア 想像したことなどを文章に書くこと。
- イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。
- ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。
- エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。
- オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の経験したことや身の回りの出来事から、したことや見たことを文章に書く。
- 日頃から「思ったこと」「驚いたこと」等の作文の材料になりそうなことをメモに書いて集めている。
- ◆一つの題材に沿って状況が読み手によく伝わるように書く。

【身に付けさせたい力】

- ①経験したことについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くこと。 (「書くこと」ウ)
- ③長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

【言語活動例】経験したことを報告する文章を書くこと。〈イ〉

【単元名】「一年生の思い出アルバム」を作ろう～文と文とのつながりに気を付けて書く～

【教材名・教材の特長】「いい こと いっぱい、一年生」 (光村図書 1年下)

- ・もうすぐ1年生が終わる時期であり、書く材料は比較的多くあるため、書きたいことを選びやすい。
- ・「うれしかったこと」「できるようになったこと」「新しく知ったこと」などを観点にすることによって、書くために必要な事柄を思い出すことができる。

【言語活動】

入学後に経験したことの中から心に残った出来事について、経験した事柄や感じたことなどを詳しく思い出して、人に伝える文章を書く。〈イ〉

【単元目標】

- ①入学からこれまでの中で、うれしかったことや驚いたことについて、進んで報告する文章を書くこと。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②自分の思い出が読み手に伝わるように、出来事とそれについて思ったこととのつながりを考えて文章を書く。 (「書くこと」ウ)
- ③長音、拗音、促音、撥音などを正しく表記するとともに、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使う。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>教材文を読み、1年生の思い出のアルバムを作ることに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきたノートや作品等を用意し、思い出を発表し合う。 ・日頃集めておいた作文の材料メモを利用する。 <p>経験したことの中から伝えたいことを選び、思い出アルバムに入れたい事柄を題材カードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生になって経験したことの中で強く心に残ったことについて家の人に伝えることを知る。
2			<p>選んだ題材について、見たこと、したこと、話したこと、そのとき感じたことなどを思い出して取材カードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材カードは一文で書く。 ・必要に応じて周りの人にも取材する。
3	②自分の思い出が読み手に	ワークシート	<p>文と文とのつながりについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル作文について、各段落に「したこと」「他の人から言われたこと」「そのとき思ったこと」「出来事全体を通じて思ったこと」が書かれていることを読み取り、モデル作文の組立てを理解する。 <p>組立表を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材カードから作文に書きたいものを選ぶ。 ・選んだ取材カードを書く順に並び替え、組立表に貼る。
4	伝わるように、出来事とそ		
5	れについて思ったこととの		
6	つながりを考えて文章を書いている。 〈「書く能力」ウ〉	下書き原稿	<p>下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組立表に沿って書く。 ・取材カードに一文で書かれていることに言葉を付け加えてよりよく状況が伝わるように書く。
7	③長音、拗音、促音、撥音	書き直した	<p>清書をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下書きを読み直し、より分かりやすく伝えられるように書き加えたり、正しい表記に直したりする。 <p>書き直した下書きを基に、清書する</p>
8	などを正しく表記するとともに、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉	下書き原稿	
9	①入学からこれまでの中	清書原稿	<p>清書した作品を読み合い、感想を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想カードに書いて、互いに交換する。 ・家の人にも読んでもらい、感想を書いてもらう。
10	で、うれしかったことや驚いたことについて、進んで報告する文章を書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	下書き原稿等	

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②取材カードの並び順どおりに一度書いてから付け足しができそうなことを考えさせ、付箋に書いて該当する箇所に貼らせる。〈ウ〉
- ③表記の誤りを指摘し、教科書などを参考にしながら正しい表記を理解させる。〈イ(エ)〉
- ①取材カード、組立表などを活用して思い出アルバムができたことを自覚させ、褒める。〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと〔小学校中学年〕

【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。
イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。
ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。
カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

【言語活動例】

- ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。
イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。
ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。
エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 時間的な順序、事柄の順序に従って、文章を書く。
- 書こうとする事柄の中心を明確にして、文章を書く。
- ◆段落相互の関係を意識しながら、目的に応じて中心となる内容の具体的な事例を挙げて説明する。

【身に付けさせたい力】

- ①相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めなどの必要な箇所は行を改めて書くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

【言語活動例】 疑問に思ったことを調べて、学級新聞などに表したりすること。 〈イ〉

【単元名】 学級新聞を作ろう～中心を明確にし、理由や事例を挙げて書く～

【教材名・教材の特長】 「学級新聞を作ろう」 (教育出版 4年上)

- ・目的に応じて、構成や使う語句、言葉の使い方などを工夫しながら書く上で適している。
- ・伝えたい内容に応じて、取り上げる内容を選択したり見出しを工夫したりする上で適している。
- ・中心となる内容を明確にし、段落相互を関係付けながら書く上で適している。

【言語活動】

学校生活において関心を持った出来事を、学級新聞に表す。 〈イ〉

【単元目標】

- ①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書く。 〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p>各グループで新聞を作ることの見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に知らせることを目的に、全校遠足、社会科見学、交通安全教室など、学校生活で伝えたい出来事を思い出す。 ・モデル新聞を基に、事実を客観的な立場で知らせる新聞の役割や、構成の特徴を理解する。 ・記事の内容、分担（トップ記事や編集後記等）、各記事や写真・図を載せる場所、字数などを決定する。
3 4 5 6 7	<p>②書こうとすることの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p>	<p>取材メモ</p> <p>構想メモ</p>	<p>取材活動を行い、取材メモを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料が不足している場合には、必要に応じてインタビューやアンケート調査などを行う。 例：班の人に特に思い出に残った出来事や理由など、詳しい様子を聞く。（遠足記事） <p>記事の構想メモを作成し、交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事内容の中心を明確にし、出来事の概要、具体的な内容、理由などを、付箋を使って分けて書き、組み立てる。 ・構想メモを互いに見合い、内容や順序について吟味する。
8 9 10 11	<p>③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉</p> <p>①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>下書き原稿</p> <p>清書原稿</p> <p>評価カード</p>	<p>構成メモを基に、記事の下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ、どこで、誰が、何を、どのように、どうした」を、落とさずに書く。 ・一文が長くなならないよう、文脈に応じて句読点を打ったり、内容や長さに応じて段落を分けたりする。 ・中心となる内容に合わせて写真・図を選んだり見出しを付けたりする。 <p>下書きを推敲し、交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事内容の中心が明確であるか、また、具体的な事例や出来事の原因等の必要な事柄を落とさずに表せたか、記事を見せ合い吟味する。 <p>記事を配置し、新聞を仕上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の名前やデザインを工夫したり、記事を枠で囲んだりするなどして、見やすくする。 <p>視点に沿って説明し合い、記事について評価し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事づくりで工夫、意識したことを説明し合う。 ・評価カードに自他班の感想を書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・事例や理由等の必要な事柄が、書かれているか。 ・伝えたいことの中心が明確であったか。 </div>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②伝えたい内容に合わせて収集した情報等を三つ程度に絞らせ、順序を考えさせる。〈ウ〉
- ③主語や並列する語の後に読点を打つなど、低学年での既習事項を思い出させる。〈イ(エ)〉
- ①家族が知りたいことと自分が伝えたいことを考えさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと〔小学校高学年〕

【目標】

目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

【指導事項】

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

【言語活動例】

ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

【「書くこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○説明文の学習を通して、段落構成の工夫が分かりやすさにつながることを理解する。

○図・表・グラフ等を取り入れて文章を書く。

◆課題を設定したり、自分の目的に応じて必要な材料を取捨選択したりする。

【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 〈「書くこと」ア〉

③文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

【言語活動例】自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書くこと。〈イ〉

【単元名】レポートを書こう ～書きたい事柄に合わせて材料を選ぶ～

【教材名・教材の特長】「分かったことを報告しよう」(学校図書 5年上)

・調べたことを読み手に分かりやすく伝えるためには、引用や図表・グラフ等を使うことも必要である。既習教材「表やグラフを使って伝えよう」の学習を活用することができる。

・レポートの書き方を学ぶことによって、他教科等に生かすことができる。

【言語活動】

設定した課題について調べ、分かったことについて図表等を取り入れてレポートにまとめる。〈イ〉

【単元目標】

①設定した課題について調べたことや考えたことが伝わるように、文章全体の構成をを考えてレポートを書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②設定したレポートの課題について、集めた材料を整理したり構成を踏まえて更に必要な材料が何かを考え追加の取材をしたりする。 〈「書くこと」ア〉

③調べたことや考えたことが伝わるように構成を工夫する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>レポートを書くことの見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科「食料生産」の学習を振り返り、レポートでどのようなことを伝えたいのかグループで話し合う。 <p>(社会科との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のモデル文等を基に、レポートには「調べようと思ったわけ」「調べたこと」「調べて分かったこと」を書くことや、使うとよい表現について知る。 ・図表を使うと分かりやすく、読み手を引き付けられることを、既習の教材やモデル文で確認する。 ・伝えたい内容を伝えるために適切な材料が使われているか、図表が適切な箇所に配置されているか、モデル文を分析する。
2			<p>レポートの課題を決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の教科書や資料集の図表を基に、疑問に思ったことや考えたことを付箋に書き出す。 ・グループで付箋を紹介し合う。 ・最も関心の高いものを自分のレポートの課題に設定する。 ・課題に選んだ理由をワークシートに書く。 ・書いたレポートは、学級の友達と伝え合うことを知る。 ・どのような方法で取材をするのか見通しを持つ。
3	<p>②設定したレポートの課題について、集めた材料を整理したり構成を踏まえて更に必要な材料が何かを考え追加の取材をしたりしている。</p> <p>〈「書く能力」ア〉</p> <p>③調べたことや考えたことが伝わるように構成を工夫している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(キ)〉</p>	取材カード	<p>レポートに必要な材料を収集する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な材料を集め、取材カードに書く。 ・集まった取材カードを取捨選択・整理する。 ・不足している情報を学校図書館の本やインターネット等を使って調べたり取材したりして集め、取材カードに書く。
4		構成表	<p>構成表を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時のレポートの書き方を思い出す。 ・説明文の学習で身に付けた段落構成を生かし、取材カードを書こうと思う順に並び替える。 ・どこに図・表・グラフを入れると自分の考えがよく伝わるか考える。 ・不足する情報について追加取材をする。
5			<p>構成表を基にレポートの下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続語を効果的に使う。
6	<p>①設定した課題について調べたことや考えたことが伝わるように、文章全体の構成を考えてレポートを書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	下書き原稿	<p>下書きを推敲する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下書き原稿を読み合い、伝えたい内容に適した材料を選んで書いているか評価し合う。また、文章構成や論の進め方、表現のよさなどに気付いたり、情報源を知ったりする。
7		推敲した	<p>レポートを清書し、読み合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートを清書する。 ・レポートを読み合い、伝えたい内容に適した材料を選んでいるかなどの観点に沿って、互いのよさを交流カードに書く。
8		下書き原稿	
9		清書原稿	

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②取材カードに書いた内容がレポートの課題に適しているか、1枚ずつ確かめさせる。〈ア〉
- ③複数の文章構成を示し、どの構成が分かりやすいか判断させる。文章を書く段階では、接続語を使って一文を短く書かせる。〈イ(キ)〉
- ①材料や構成のよいところを認め、モデル文を参考に書き出してみるよう助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと〔中学校第1学年〕

【目標】

目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。
イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。
ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。
オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

【言語活動例】

- ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。
イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。
ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。
◆伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。
※書いたものを基に友達と交流して、根拠の材料の用い方、根拠の明確さについて互いに意見を述べる活動を経験している。

【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、的確に書く能力を身に付け、考えをまとめようとする態度を育てる。
〈国語への関心・意欲・態度〉
②伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと。 〈「書くこと」ウ〉
③書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。 〈「書くこと」オ〉
④事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【言語活動例】 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。〈ア〉

【単元名】 鑑賞したことを文章に書こう～伝えたい事柄を根拠を明確にして書く～

【教材名・教材の特長】 「根拠を明確にして書くには」（教育出版 1年）

- ・ 絵画作品を例に、例文が提示され、鑑賞文を書く上で注意すべき要点をまとめてあるので、根拠を明確にして書くことの大切さを理解することができる。
- ・ 「根拠を明確にして書く」こととそのための表現が具体的に例示されている。

【言語活動】

美術作品について鑑賞したことを文章に書く。〈ア〉

【単元目標】

- ①美術鑑賞で感じたことを的確に文章にまとめようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
②伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。 〈「書くこと」ウ〉
③書いた文章を互いに読み合い、意見を述べ合って自分の表現の参考にする。〈「書くこと」オ〉
④事象などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中で使う。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>美術作品について鑑賞したことを文章に書くという見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大寺金剛力士像，俵屋宗達「風神雷神図」を見て，興味を持った一方を選び，感じたことや心に強く残ったことをメモする。 ・教科書の例文「牛乳を注ぐ女」(フェルメール作)を読み，下の3点について確認する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・絵画作品を見て，強く印象に残ったことを文章の中心にする。 ・自分が強く心に残ったことは，鑑賞に関する用語（形・色彩・材料・光・動き・奥行き等）の，何に注目して得られたものかを明らかにする。 ・感じたことの根拠を，つなぐ言葉や文末表現（「それは～からです。」「なぜなら～からです。」等）を効果的に用いて書く。
2 3	<p>②伝えたい事柄について，根拠を明確にして書いている。 〈「書く能力」ウ〉</p> <p>④事象などを表す多様な語句について理解を深め，文章の中で使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>下書き用紙</p>	<p>※第1時は美術担当の教師とT.T.で行うことも考えられる。</p> <p>選んだ美術作品について，自分の印象が何に着目したものを確認し，感じたことを記述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術品の写真を載せたワークシートを使い，根拠となる部分に矢印を引きながら印象を記す。 ・記したもののから，特に文章にしたいものを選ぶ。 ・印象に残ったことが，鑑賞に関する用語の何に着目したのかワークシートに書き加える。 <p>根拠を明確にして，400字程度の下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残ったことを，着目した点とその根拠を組み合わせ，順序を考えながら書いていく。 ・感じたことを表現する語彙を探すために辞書や類語辞典，類語集などを参考にする。 <p>下書きをグループで読み合い助言し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残ったこととその根拠となる記述について説明をする。 ・使用した用語や表現という点について助言し合う。
4 5	<p>③書いた文章を互いに読み合い，意見を述べ合い，自分の表現の参考にしている。 〈「書く能力」オ〉</p> <p>①芸術鑑賞で感じた印象を的確に文章にまとめようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>清書用紙</p>	<p>グループでの助言を参考にして推敲し，清書する</p> <p>清書を読み合っ，互いの感想から自分の文章について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を述べ合い，それをもとにして自分の文章について振り返ったことを清書用紙の左隅の枠に記入する。

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②自分が感じたことを率直に表現させ，それは作品の何によるものかを考えさせる。〈ウ〉
- ④表現したい語彙を探すための辞書の使い方について，例を挙げながら説明する。〈イ(ウ)〉
- ③友達の下書きを読んで共感できるところに注目して，感想を述べるよう助言する。〈オ〉
- ①感じたことの根拠になるのは作品のどの部分か，説明する表現を考えさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと〔中学校第2学年〕

【目標】

目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫してわかりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。
イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文書の構成を工夫すること。
ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。
エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。
オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言したりして、自分の考え方を広げること。

【言語活動例】

- ア 表現の仕方を工夫して、詩歌を作ったり物語などを書いたりすること。
イ 多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。
ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 書くために集めた材料を分類することができる。
- 身近な日常生活の中から課題を決めることができる。
- ◆多様な方法で書くための材料を集めながら自分の考えをまとめる。

【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。〈「書くこと」ア〉
- ③相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。〈イ〉

【単元名】レポートを書こう～多様な方法で材料を集め自分の考えをまとめる～

【教材名・教材の特長】「資料を収集して自分の考えを書くには」（教育出版 2年）

- ・「書くこと」の学習過程のうち、資料を収集し自分の考えをまとめることが中心になっているので、指導事項を絞った指導をするのに適している。
- ・社会生活の中で課題を見付け、具体的な取材の方法とレポートの基本的な形式を知ることができる。

【言語活動】

国語に関する世論調査をきっかけにして、関心ある事項のレポートを書く。〈イ〉

【単元目標】

- ①国語に関することについて、レポートを書いて考えを広げようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②国語に関する調査から自分の課題を決め、材料を集めて自分の考えをまとめる。〈「書くこと」ア〉
- ③目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>文化庁の「国語に関する世論調査」を見て、関心ある事項についてレポートを書くという見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの形式とレポートに適した文体を知り、自分の考えを形式に従ってまとめていくことを知る。 ・レポートの形式や書き方を学習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 題名・日付・報告者 2 課題と取り上げた理由 3 調査の方法 4 調べた内容 5 まとめ（意見・今後の課題など） 6 参考資料（出典を明示する） </div>
2 3	<p>②国語に関する調査から自分の課題を決め、材料を集めて自分の考えをまとめている。 〈「書く能力」ア〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>下書き用紙</p>	<p>「国語に関する世論調査の結果」の中から関心ある事項を見付け、それに関して必要な資料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世論調査の結果の記述内容やグラフ等から読み取れることを確認する。 ・「国語に関する世論調査の結果」を読んで感じたことをグループで共有し、自分が一番関心ある事項を見付ける。 ・調査結果から関心ある事項をワークシートに書き出す。 ・関心ある事項について自分の意見をまとめるために、身の回りの人のインタビューへの回答、新聞、書籍などを資料として集める。 <p>関心ある事項に対して自分の主張や意見、今後の課題などを文章にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた資料を参考に自分の主張又は意見を文章にまとめる。
4 5 6	<p>③目的に応じて、文章の形態に違いがあることを理解している。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p> <p>①国語に関することについて、レポートを書いて考えを広げようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>清書レポート 感想用紙</p>	<p>国語について関心のある事項のレポートを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの項目に従ってA4用紙2枚程度で下書きする。 ・推敲後、清書する。 <p>グループでレポートを読み、感想を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人から4人のグループで回し読みをしてA5判程度の大きさの紙に感想を記入して本人に渡す。 <p>全員のレポートを一まとめにして「国語に関するレポート集」にする</p>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②普段の生活の中で気になる言葉や言い回しを考えさせる。〈ア〉
- ③レポートと他の文章とは文体に違いがあることを確認させる。〈イ(ウ)〉
- ①各項目の分量は少なくともレポートの形式で書くようにする。〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと〔中学校第3学年〕

【目標】

目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

【指導事項】

ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。

ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。

エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

【言語活動例】

ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。

イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。

【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成について助言したりして自分の考えを広げる。

◆事実や事柄、意見や心情が相手に伝わるように、具体例を加えるなどの工夫をして書く。

◆具体的事実を一般化し、自分の意見の妥当性へと結び付けて書く。

※本単元の前に「読むこと」の単元として「論語」を学習しており、孔子の言葉を実生活との関係の中で理解している。学ばせて時にこれを習ふー「論語」から（光村図書3年）

【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くこと。

〈「書くこと」イ〉

③古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

【言語活動例】 目的に合わせてメッセージを書く。〈その他〉

【単元名】 下級生にメッセージを書こう

～展開や引用内容を工夫して説得力のある文章を書く～

【教材名・教材の特長】（「論語」光村図書 3年）

・「読むこと」の授業において、全部で四節の孔子の言葉を学んでいるが、そのどれもが中学生が自分自身の生活において実感できるものである。

・古代中国の思想と現代の考え方に相違がないことを知ることができる。

【言語活動】

「論語」の一節を引用して下級生へのメッセージを書く。〈その他〉

【単元目標】

①中学校生活を振り返り、下級生に伝えたい内容をメッセージとして書こうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②下級生に向けて書くメッセージの中に、「論語」の一節を引用して、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書く。

〈「書くこと」イ〉

③「論語」の一節を引用して、下級生へのメッセージを400字程度で書く。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>既習の「論語」の内容を振り返り、それらの言葉を引用して下級生にメッセージを書く見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「論語」の言葉について振り返り、それぞれの言葉の意味を確認する。 ・それぞれの言葉について、自分たちの生活の中で同じように感じた経験はないか話し合い、それはどのような時だったのか発表し合う。 ・卒業を前に「論語」の言葉を使って、下級生に400字程度のメッセージを書くという課題を持つ。 ・自分が引用したいと思う一節をワークシートに書き、その一節と関連のあるエピソードや体験をクラスで出た意見を参考に複数書き出す。
2 3	<p>②下級生に向けて書くメッセージの中に、「論語」の一節を引用して、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書いている。〈書く能力イ〉</p> <p>③「論語」の一節を引用して、下級生へのメッセージを400字程度で書いている。 〈言語についての知識・理解・技能ア(イ)〉</p>	<p>ワークシート メッセージ原稿 文集</p>	<p>メッセージ原稿を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に書き出したエピソードや体験の中から、「論語」の言葉の具体例として、最も合っていると思うものを一つ選ぶ。 ・言葉と具体例から、下級生に伝えたいことを一文で書く。 ・「選んだ言葉、具体例、伝えたいこと」の三つの項目をワークシートに整理し、ペアで交流する。その際、「伝えたいことの根拠として具体例が適切か」という視点で推敲し合い、適切な事例を考える。 ・伝わりやすい構成を考え、400字程度の文にまとめる。その際引用部分分かるよう「 」で示す等の工夫をする。
4	<p>①中学校生活を振り返り、下級生に伝えたい内容をメッセージとして書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>感想カード 振り返りカード</p>	<p>メッセージを読み合い、評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで交流し、評価カードを書いて、互いに交換する。 ・自分の作品を読み直し、振り返りカードを書く。 ・印刷したものを下級生に配布する。

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②三つの項目を「引用する言葉、具体例、メッセージ」の順に並べ文章にするよう助言する。〈イ〉
- ③400字書くことが難しい生徒には、伝えたいことを箇条書きで並べても良いことを伝える。
〈ア(イ)〉
- ①評価する際には、原稿を推敲した時の「伝えたいことの根拠として具体例が適切か」という視点で読むことを伝える。
〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと〔高等学校 国語総合〕

【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

【指導事項】

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。
- イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。
- エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

【言語活動例】

- ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。
- イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。
- ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。

【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 対象を的確に説明したり描写したりするなど、表現の仕方を考えて書く。
- ◆書いた文章について自己評価や相互評価を行って自分の表現に役立てる。

【身に付けさせたい力】

- ①国語を適切に表現し、伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、国語の向上を図る態度を育てる。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 〈「書くこと」ア〉
- ③対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 〈「書くこと」ウ〉
- ④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。〈イ〉

【単元名】 人物を紹介する～適切な表現の仕方を考えて書く～

【教材名・教材の特長】 「表現の扉 4 体験を聞く」（筑摩書房「精選 国語総合 現代文編 改訂版」）

- ・人物を紹介するという表現活動について、インタビュー、形式を選択して文章にすること、インタビュー後の礼状など、話を聞くための一連の流れを知ることができる。
- ・インタビューで聞き取った話をまとめるための具体的な手立てと、多様な形式が紹介されている。

【言語活動】

インタビューを基にして身近な社会人の紹介記事を書く。〈イ〉

【単元目標】

- ①人物を紹介するための適切な表現を考えて、伝える力を高めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②人物を紹介するための文章の形態や文体、語句などを工夫して書く。 〈「書くこと」ア〉
- ③人物を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書く。 〈「書くこと」ウ〉
- ④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。 (言語についての知識・理解イ(イ))	ワークシート	<p>身近な社会人の紹介文を書くために、新聞や雑誌の人物紹介記事を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な形式で書かれた新聞や雑誌の人物紹介のコラムや記事を読み、紹介記事の書き方として気付いたことをワークシートにまとめる。(人物を紹介するための効果的な表現について、見出し・小見出しなどの表現について、写真なども含めた全体のレイアウトなど) 紹介記事の形式を知る。 <ol style="list-style-type: none"> 話し手の言葉だけでまとめる形式 聞き手と話し手の問い・答えでまとめる形式 聞き手の報告を地の文として、その中に話し手の言葉を引用して入れていく形式 <p>自分が話を聞きたいと思う人を決め、その動機と質問したい項目をワークシートにまとめる</p> <p>仕事や趣味で魅力ある生き方をしている社会人に仕事や生き方に関する体験談を聞く</p> <p>※長期休暇などを利用してインタビュー取材を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューの際の注意点を事前に確認しておく。 許可を得て、録音・写真撮影をする。
3 4 5 6	②人物を紹介するための文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。 (「書く能力」ア) ③人物を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。(「書く能力」ウ) ①人物の紹介をするための適切な表現を考えて、伝える力を高めようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ワークシート 下書き 人物紹介の記事 評価用紙	<p>主題をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なぜこの人の話を聞きたいのか」という自分の動機を思い出しながら取材メモを読み返す。 取材メモから印象深い言葉や感銘を受けたエピソードなどを拾い出し、主題を考えてワークシートにまとめる。 <p>自分の伝えたい内容について形式を選択して編集する</p> <ul style="list-style-type: none"> 主題を軸に、メモや感想から文章にするものを取捨選択する。 <p>記事として文章化する</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な見出しや小見出しを考える。 印象に残ったことを適切な表現の仕方でのちに説明する。 記事の形式で下書きし、推敲してから清書して仕上げる。 <p>相互評価・自己評価を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 班ごとに友達の紹介記事を読んで感じたことと表現の仕方について感じたことを、互いの評価用紙に書き、それを基に自己評価を行う。

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ④文中の語の位置を変えたり省略するだけで表現効果が変わることを確認する。(イ(イ))
- ③読みたくなるような文体を決めるために、第一時の記事例を振り返るよう助言する。(ア)
- ②話し手の言葉を引用して表記するなど、効果的な表現方法を助言する。(ウ)
- ①興味深く感じたことを中心に書くよう助言する。(国語への関心・意欲・態度)